

問1 鎌倉幕府が「六波羅探題」という機関を新たに設置した目的と、その背景にある出来事の説明として最も適切なものを選びなさい。（2016年 茨城県公立入試 類似）

1. 後鳥羽上皇が倒幕の兵をあげた承久の乱の後、朝廷を監視し西日本の統治を強化するため
2. モンゴル帝国の襲来（元寇）に備え、九州沿岸の警備と西国武士の指揮を執るため
3. 源頼朝が征夷大将軍に任命された際、京都の公家との外交交渉を円滑に進めるため
4. 室町幕府の内紛である観応の擾乱を受け、京都の治安維持を専門に行うため

問2 鎌倉時代の歴史の流れを記した略年表において、北条泰時が武士の裁判基準として「御成敗式目（貞永式目）」を制定する約10年前に発生した、幕府の支配権が全国に広がる決定的な契機となった出来事を選びなさい。（2018年 静岡県公立入試 類似）

1. 後鳥羽上皇が幕府打倒を計画して敗れた承久の乱
2. 崇徳上皇と後白河天皇が対立した保元の乱
3. 平氏と源氏が京都で衝突した平治の乱
4. 北条氏が他の有力御家人を排斥した宝治合戦

問3 鎌倉時代の封建制度の根本となった「御恩と奉公」の仕組みにおいて、御家人が命をかけて「戦いに参加」した背景には、將軍から与えられた「御恩」という強い動機がありました。この「御恩」の具体的な仕組みについて説明したものとして、正しいものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）

1. 先祖伝来の領地の支配を認めたり、戦功に応じて新しい領地を与えたりすること
2. 全国の武士を統制するために、一国ごとに守護を任命する権利を全ての武士に与えること
3. 朝廷から高い位階である関白の職に任命してもらえよう、將軍が仲介すること
4. 自分の領地で行われる商業活動に対して、幕府が一切の税を免除して自由貿易を認めること

問4 源頼朝が1185年に地頭や守護を設置する権利を朝廷に認めさせた、歴史的な背景や目的として最も適切な説明はどれか。

（2016年 奈良公立入試 類似）

1. 源義経の追捕を名目に、全国的な軍事・警察権と徴税権を掌握するため
2. 元寇による国家的危機に際し、九州沿岸の警備を強化するため
3. 承久の乱で勝利した結果、西日本に控えていた朝廷勢力を監視するため
4. 守護大名の権力増大を抑え、將軍による専制政治を確立するため

問5 鎌倉時代の政治体制において、北条泰時が御成敗式目を制定した目的やその内容について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 佐賀公立入試 類似）

1. 武士社会でそれまで行われてきた慣習を整理し、公平な裁判の基準を示すため。
2. 元の襲来に備えて、御家人たちの団結を強めるための軍事的な規則を定めるため。
3. 朝廷が定めた律令制度をより厳格に守らせ、貴族と武士の身分を明確にするため。
4. 江戸幕府が開かれた際に、大名を統制するために出された領地管理の法を参考にするため。

問6 鎌倉幕府が、御家人の義務として「京都の警備」を重視した背景や目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 長野県公立入試 類似）

1. 朝廷のある京都の治安を維持し、幕府の警察権を誇示することで、朝廷に対する支配力を強めるため
2. 室町時代に発達した商業や手工業を保護し、京都を通る物資から通行税（関銭）を徴収するため
3. 御家人を定期的に京都へ交代で赴かせることで、経済的な負担を与えて反乱の芽を摘むため
4. 分割相続によって領地が細分化された御家人に対し、京都での新たな領地を与える機会を作るため

問7 13世紀に起こった「元寇（モンゴル帝国の襲来）」の背景と、当時の幕府の対応について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2026年 群馬公立入試 類似）

1. 執権の北条時宗が大陸を統治した元からの服属要求を拒否したため、二度の襲来を招くことになったが、九州の沿岸に石築地を築くなどして防戦した。
2. 執権の北条泰時が大陸との交易を制限したため、これに反発した元軍が襲来したが、幕府は武力ではなく外交交渉によって紛争を解決した。
3. 執権の北条時宗は元軍の襲来を予測して大陸へ先制攻撃を仕掛け、大陸沿岸部の一部を領土として獲得することで幕府の経済基盤を強化した。
4. 鎌倉幕府は元の要求を受け入れて一時的に服属したが、足利尊氏が元軍の拠点となっていた博多を奪還したことで、日本の独立を維持した。

問8 鎌倉時代には、武士の力強さや民衆のエネルギーを反映した、写実的な表現を特徴とする文化が展開しました。この時代の文化を代表する作品として、快慶らとともに東大寺南大門に設置された、筋骨たくましい肉体美を持つ金剛力士像を制作した中心的な人物は誰ですか。（2022年 新潟県公立入試 類似）

1. 運慶
2. 雪舟
3. 一遍
4. 道元

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 後鳥羽上皇が倒幕の兵をあげた承久の乱の後、朝廷を監視し西日本の統治を強化するため	承久の乱以前の幕府は、主に関東を中心とした支配を行っていましたが、乱の勝利によって西日本にも大きな支配力を持つようになりました。朝廷による倒幕の動きを二度と許さないよう、監視の拠点として六波羅探題を設置し、西日本の地頭の統制や裁判も担わせることで、幕府による全国支配が強まるきっかけとなりました。
問2	<b>答え 1</b> 後鳥羽上皇が幕府打倒を計画して敗れた承久の乱	1221年の承久の乱によって幕府が朝廷に対して政治的な優位を確立し、支配力が全国的に拡大しました。この政治的な安定と支配の広がりを背景に、1232年に北条泰時が御成敗式目を定め、武士社会の秩序を整える段階へと移行しました。保元の乱や平治の乱は平安時代末期の出来事であり、時代設定が異なります。
問3	<b>答え 1</b> 先祖伝来の領地の支配を認めたり、戦功に応じて新しい領地を与えたりすること	将軍と御家人の関係は、互いの利益に基づく双務的な側面がありました。御家人が「奉公」として重い軍役を果たす最大の理由は、将軍から「御恩」を受け、自身の生活基盤である土地の支配権を確実なものにする必要があったからです。具体的には、もともと所領していた土地の支配を認めもらう「本領安堵（ほんりょうあんど）」と、手柄を立てた際に新しい土地の地頭に任命してもらう「新恩給与（しんおんきゅうよ）」の2つが主な内容でした。守護の任命は幕府の地方統治の仕組みであり、個々の御家人に与えられる「御恩」の定義とは異なります。
問4	<b>答え 1</b> 源義経の追捕を名目に、全国的な軍事・警察権と徴税権を掌握するため	源頼朝は、壇ノ浦の戦い後に逃亡した源義経を捜索・逮捕することを正当な理由（名目）として朝廷と交渉し、全国に守護と地頭を設置する法的な許可を得ました。これによって幕府は、それまで朝廷や貴族が支配していた荘園や公領に対しても、武力的な警察権や経済的な徴税権を背景に介入することが可能になりました。
問5	<b>答え 1</b> 武士社会でそれまで行われてきた慣習を整理し、公平な裁判の基準を示すため。	北条泰時は、武士が理解しやすいように、それまでの武家社会の先例や道徳に基づいた内容を法制化しました。これにより、主従関係や土地の権利に関する争いを公平に解決し、幕府に対する御家人の信頼を高める狙いがありました。のちの室町・戦国時代の法にも大きな影響を与えています。
問6	<b>答え 1</b> 朝廷のある京都の治安を維持し、幕府の警察権を誇示することで、朝廷に対する支配力を強めるため	鎌倉幕府は、将軍が御家人の領地支配を保障する代わりに、軍役を通じて全国的な警察・軍事権を握りました。特に朝廷のある京都の警備（京都大番役）を幕府の指揮下で行うことは、幕府が政治的権威を高め、全国支配を正当化する上で極めて重要な意味を持っていました。分割相続は鎌倉時代に行われていましたが、それが京都警備の目的ではありません。
問7	<b>答え 1</b> 執権の北条時宗が大陸を統治した元からの服属要求を拒否したため、二度の襲来を招くことになったが、九州の沿岸に石築地を築くなどして防戦した。	大陸を統治した元（モンゴル帝国）のフビライ・ハンは日本に服属を求めましたが、執権の北条時宗はこれを拒否しました。これにより文永の役、弘安の役という二度の侵攻を受けましたが、幕府は博多湾沿岸に「防塁（石築地）」を築くなどの準備を進め、集団戦法やてつほう（火器）を用いる元軍に対し、御家人らを動員して防戦を指揮しました。この戦いは防衛戦であったため、勝利しても新たな領土を得られず、後の恩賞問題が幕府衰退のきっかけとなりました。
問8	<b>答え 1</b> 運慶	鎌倉文化は、それまでの平安貴族による優美で繊細な文化とは異なり、新興勢力である武士の気風を反映した力強い作風が特徴です。東大寺は平氏による南都焼討で焼失しましたが、鎌倉時代初期に重源らの尽力で再建が進められました。その際、運慶ら慶派と呼ばれる仏師集団が、短期間でこの巨大な金剛力士像（阿形・吽形）を完成させました。選択肢にある雪舟は室町時代の水墨画家、一遍と道元は鎌倉新仏教の開祖であり、彫刻家ではありません。